

令和2年度 畜産研究課 試験研究課題一覧

	研究課題名	研究内容	研究期間	担当	共同・協力機関
1	健康な子牛を産ませる移行期栄養管理技術の開発	乾乳前期における低栄養粗飼料の飽食給与が、周産期母牛と生産子牛の健全性に及ぼす影響について検討する。	R1～R2	酪農	
2	乳用牛の泌乳量の平準化とAI(人工知能)の活用による健全性向上技術の開発	泌乳平準化や乾乳期間の短縮等、乳用牛の最適な生産サイクルを確立・提示することで、乳牛の生涯生産量の向上と低コスト生産を両立する酪農モデルの構築を目指す。	H28～R2	酪農	岐阜県、岡山県、 広島県、家畜改良センター 受託：農研機構北海道農業研究センター
3	夏の受胎率UPを目指す現地調査型試験～徳島流酪農経営スタイルの構築～	夏期における受胎率の低下対策を図るため、初期受精卵のヒートストレスを回避する方策を検討するとともに、ビックデータを活用し、飼養管理と夏期受胎率の関連及び夏期に繁殖成績が良好な個体の特性調査を行う。	R2～R4	酪農	
4	中規模酪農経営改善推進事業(乳用牛群検定普及定着化事業)	検定成績の分析指導と牛群検定農家及び検定指導員を対象として、牛群検定情報の活用促進を図るための研修会を開催する。	H13～	酪農	県酪連 牛群検定組合
5	家畜改良総合対策推進事業	受精卵移植技術により、県内で飼養されている乳牛の優良遺伝子を有効活用し、酪農経営の維持発展を図る。	H20～	酪農	
6	県有種雄牛精液の高品質安定供給に向けた飼養管理技術の開発	優良精液の安定供給を図るため、日本飼養標準の発育曲線及び栄養水準を指標に、採精した精液正常を検査し、季節及び月例における個体毎の最適飼料給与設計を確立する。	R1～R3	肉牛	
7	ICT技術(発情検知システム)を活用した肉用雌牛の繁殖管理の効率化	ICT技術を活用した肉用雌牛の繁殖成績の向上と効率的な受精卵生産システムを構築する。	R1～R3	肉牛	
8	ICT技術を活用した省力化と肥育期間短縮による収益向上の検討	肥育農家の経営安定化を図ることを目的に、肥育期間短縮に向けた早期肥育技術を開発する。	H30～R2	肉牛	
9	受精卵供給センター事業	黒毛和種牛の優良受精卵を採卵し県内畜産農家に供給することにより、繁殖牛の改良と肉用素牛の増頭を図る。	H1～	肉牛	
10	ゲノミック評価を活用した新たな肥育素牛育成管理技術の確立	ゲノミック評価を活用し、初生子牛における個体毎の産肉能力に関する遺伝的能力を把握し、個体毎の遺伝的能力に合った育成管理技術を確立する。	R2～R4	肉牛	
11	県有種雄牛造成体制整備事業	徳島県独自の系統構成を持つ特色ある種雄牛を造成し、優秀な種雄牛から生産した精液の供給体制の整備を図るとともに、種雄牛が有する優良遺伝子を活用した新ブランド牛の創出に取り組み、牛肉の美味しさを指標とした県内肉用牛の育種改良及び品質向上を図る。	R2	肉牛	
12	開放型育種による効率的な豚の改良技術に関する試験	アワヨークで用いてきた閉鎖群育種による系統造成に対し、他系統より能力の優れる種畜を導入し、育種価による能力評価と選抜を繰り返すことで、小規模かつ効率的に種畜を改良する手法を開発する。また、改良した種畜の農家供給を図る。	R1～	養豚	
13	高温ストレスに対し耐性のある豚群作出技術の開発	PSE肉発生の原因となるDNAマーカーを開発し、高温ストレスに対し抵抗性のある豚群作出技術を確立する。	R2～R4	養豚	
14	プロバイオティクスを活用した豚飼育技術	宮入菌の活用により、耐性菌対策及びアニマルウェルフェアに配慮した豚飼育技術を確立する。	R1～R3	養豚	

	研究課題名	研究内容	研究期間	担当	共同・協力機関
15	阿波とん豚の維持に関する試験	維持系統における遺伝子型固定豚の増頭、肉質に関わる候補遺伝子領域の絞り込みによる選抜効率の向上及びBLUP法を活用した繁殖能力の改良等を検討し、阿波とん豚種豚の安定供給を図る。	H28～	養豚	
16	阿波とん豚の発育能力向上試験	DNA解析により阿波とん豚の発育に悪影響を及ぼすイノシシ由来遺伝子について明らかにするとともに、有害遺伝子の除去に取り組む。また、統計モデルを用いた能力評価(育種価推定)とその評価値を活用した種豚選抜を行い、阿波とん豚の発育能力の向上を図る。	R2～R4	養豚	
17	タデ藍活用飼料による美味しい高品質鶏肉生産技術の開発	食用藍の利活用を進める事業者と連携して飼料利用体制を構築し、鶏肉品質や生産性を高める本県独自の肉用鶏飼養技術として確立を図り、現場実証により実用性を検討する。	R1～R3	養鶏	(株)ボン・アーム 貞光食糧工業株式会社
18	UV-LEDを使った鶏舎光環境システムの開発	生物の光応答研究を応用したUV-LED開発を強みとする徳島大学らとの連携により、肉用鶏生産におけるUV光刺激の有用性評価に取り組み、次世代LEDによる光環境制御を取り入れた新しい養鶏スタイルを確立する。	R2～R4	養鶏	
19	輸出入「阿波尾鶏」の品質保持技術の開発	輸出に必要となる冷凍解凍処理が阿波尾鶏の品質に与える影響を最小限にし、海外市場において本来の味や食感を発揮できる品質保持技術を開発する。	R2	養鶏	
20	阿波尾鶏の経営力を高めるLED照明技術の開発	行動制御効果の高い青色LED光と、生育後期の増体向上効果が高い白色LED光が「阿波尾鶏」の生育に及ぼす影響を調査し、慣行飼育に適する照明プログラムを作成する。	H30～R2	養鶏	
21	阿波尾鶏安定生産確保事業	「阿波尾鶏」の品質保持及び安定生産を図るため、生産規模に応じた原々種鶏群系統の維持及び種卵供給に取り組む。	H13～	養鶏	養鶏協会
22	稲ワラサイレージ品質安定技術の開発	稲ワラサイレージの品質向上を図るために、稲わらにカビが発生する条件の解明と、農研機構が開発中である新たな乳酸菌製剤を含めた添加剤3種類を使用し、稲わらサイレージの品質向上および長期保存における効果を検証する。	R1～R3	飼料	
23	高能力飼料作物品種選定調査	本県に適した生育性・収量性に優れた飼料作物の品種選定を行い、優良品種の普及促進に努め、粗飼料自給率の向上を図っていく。	H22～	飼料	日本草地畜産種子協会
24	飼料関連事業	生育等の優れた飼料作物の研究・普及を図る。 低コスト放牧の拡大、公共牧場の活用等を通じた日本型放牧の普及・定着を図る。	H26～	飼料	
25	自給飼料生産における採草地利用の省力化技術対策	採草地における圃場管理作業の省力化を図るため、通常、年2回行われる春秋の播種作業を秋1回に集約し、新たな飼料作物体系を開発する。	R1～R3	飼料	
26	畜舎汚水処理水の水質向上技術の開発	一般排水基準が導入されても対応可能なように、処理水中の硝酸態窒素(N)、リン(P)、COD等を低コストで低減する三次処理技術を開発する。	R1～R3	飼料	
27	畜産バイオマス活用推進事業・堆肥分析センター(環境汚染防止対策)	畜産経営における環境汚染防止を図るため、総合的な指導体制を整備するとともに堆肥の効率的な生産・利用を促進する。	H28～R2	飼料	
28	畜産バイオマス活用推進事業・堆肥分析センター(堆肥等品質・成分分析)	堆肥、尿汚水の品質、成分分析を実施する。	H28～R2	飼料	